

金銅製龍頭

6世紀半ばまで遡ることが出来るこの一對の装飾的な金銅の龍頭は、沖ノ島の祭場で発掘されました。それぞれの長さは約 **20cm** で、非常によく似ていますが、表現にわずかな違いがあります。龍頭はフィニアル、頂部装飾の可能性が高く、旗竿や日傘の先端に取り付けられました。この対は中国から輸入されたものと考えられています。中国北西部にある唐代(618–907 年)敦煌石窟の洞窟壁画では同様の装飾された龍頭を見つけることができます。